

学校法人 川崎学園

■ 学園の概要

■ 障がい者雇用の状況



■学園の概要

■障がい者雇用の状況



学園の理念

ひと
人間をつくる

体をつくる

医学・医療福祉学をきわめる



学校法人 川崎学園

川崎学園の施設

■教育機関

- ・川崎医科大学
- ・川崎医療福祉大学
- ・川崎医療短期大学
- ・川崎医科大学附属高等学校（倉敷市生坂）
- ・幼保連携型認定こども園かわさきこども園
- ・専門学校川崎リハビリテーション学院（学校法人九曜学園）

■医療機関

- ・川崎医科大学附属病院
- ・川崎医科大学総合医療センター（岡山市北区中山下）



川崎医科大学



学校法人 川崎学園

川崎医療福祉大学



学校法人 川崎学園

川崎医療短期大学



学校法人 川崎学園

川崎医科大学附属高等学校



学校法人 川崎学園

幼保連携型認定こども園

かわさきこども園



学校法人 川崎学園

専門学校 川崎リハビリテーション学院



学校法人 川崎学園

川崎医科大学附属病院



学校法人 川崎学園

川崎医科大学総合医療センター



学校法人 川崎学園



沿革

- ・昭和45年 3月 学校法人川崎学園 設立
- ・昭和45年 4月 川崎医科大学 開学 (中四国で唯一の私立医大)
- ・昭和45年 4月 川崎医科大学附属高等学校 開校 (全国で唯一の医大附属高校)
- ・昭和46年 1月 総合病院川崎病院から川崎医科大学附属川崎病院へ名称変更
- ・昭和48年 4月 川崎医療短期大学 開学
- ・昭和48年12月 川崎医科大学附属病院 開設
- ・昭和49年 4月 川崎リハビリテーション学院 開設
- ・昭和54年10月 川崎医科大学附属病院 救命救急センター 開設
- ・平成 3年 4月 川崎医療福祉大学 開学 (『医療福祉』分野で全国に先駆け)
- ・平成 6年 3月 川崎医科大学附属病院 高度救命救急センターとして認可
- ・平成 6年 4月 川崎医科大学附属病院 特定機能病院として承認
- ・平成13年 4月 ドクターヘリ事業開始 (日本初の正式運航)
- ・平成28年 8月 岡山市北区中山下に新病院竣工
- ・平成28年12月 川崎医科大学附属川崎病院から
川崎医科大学総合医療センターに名称変更
- ・平成30年 4月 幼保連携型認定こども園かわさきこども園 開園



様々な職種・雇用形態

■教職員数:4,821名（派遣職員を含む）

＜令和3年4月1日現在＞

教員、技術員、研究補助員、舎監・寮職員、管理人、養護職員、学生カウンセラー、設備関係技術員、園芸技術員、整備員、洗濯係、用務員、警備員、電話交換手、医師、看護師、保健師、助産師、看護補助員、看護助手、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、視能訓練士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、臨床工学技士、歯科衛生士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員、保育士、医療ソーシャルワーカー、医療介護福祉士、健康運動指導員、事務職員 ……など

■雇用形態

- ・常勤／非常勤
- ・直接雇用職員／派遣職員
- ・正職員／嘱託職員／臨時職員
- ・フルタイム勤務／パートタイム勤務 ……など

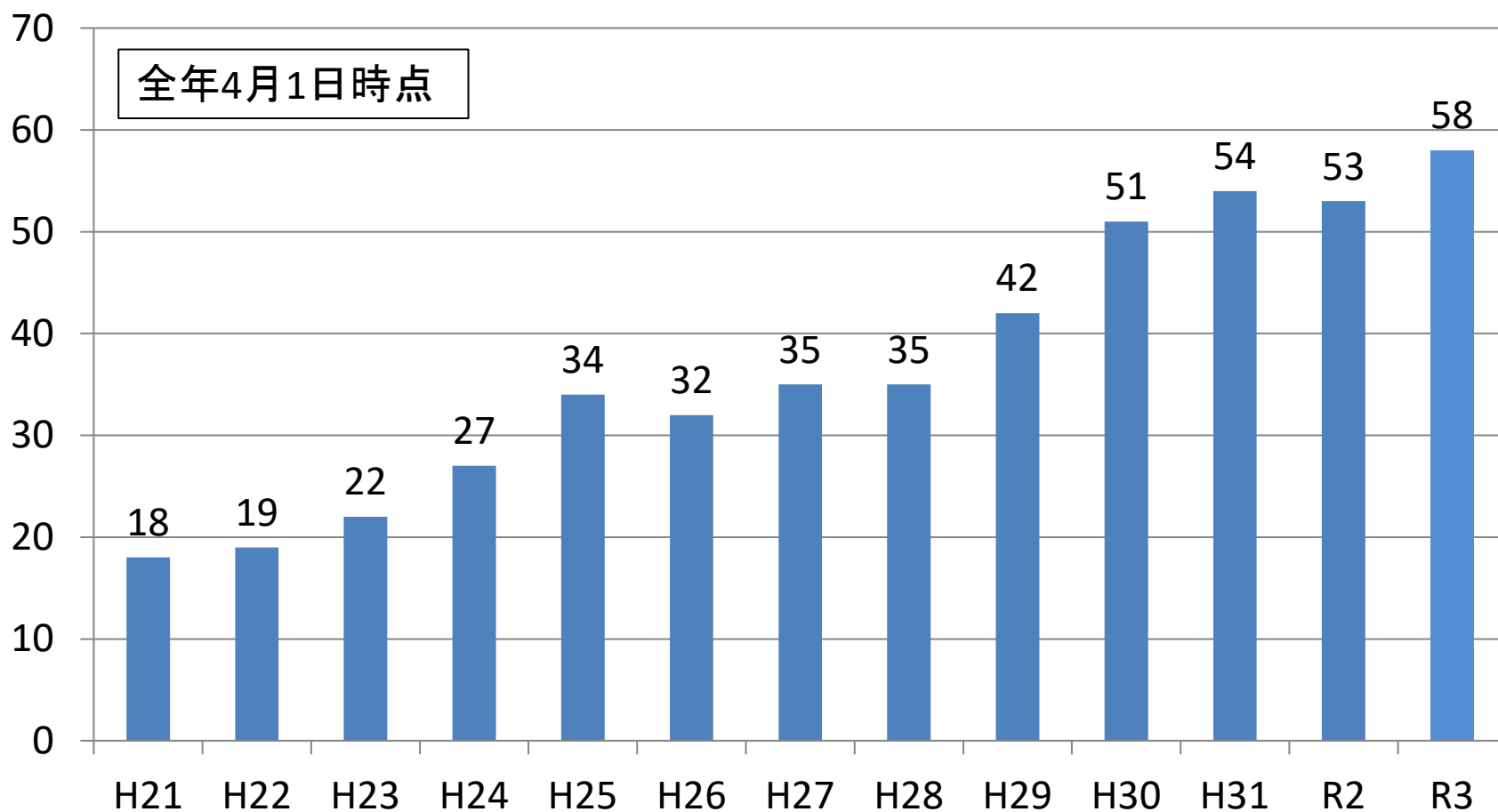


■ 学園の概要

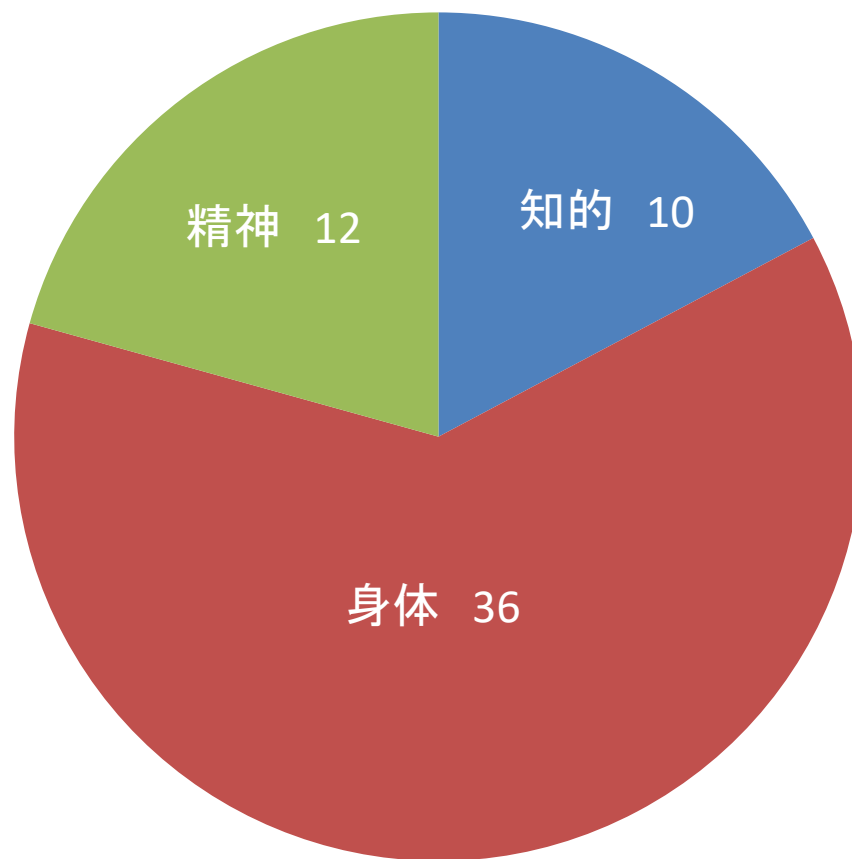
■ 障がい者雇用の状況



障がい者雇用人数



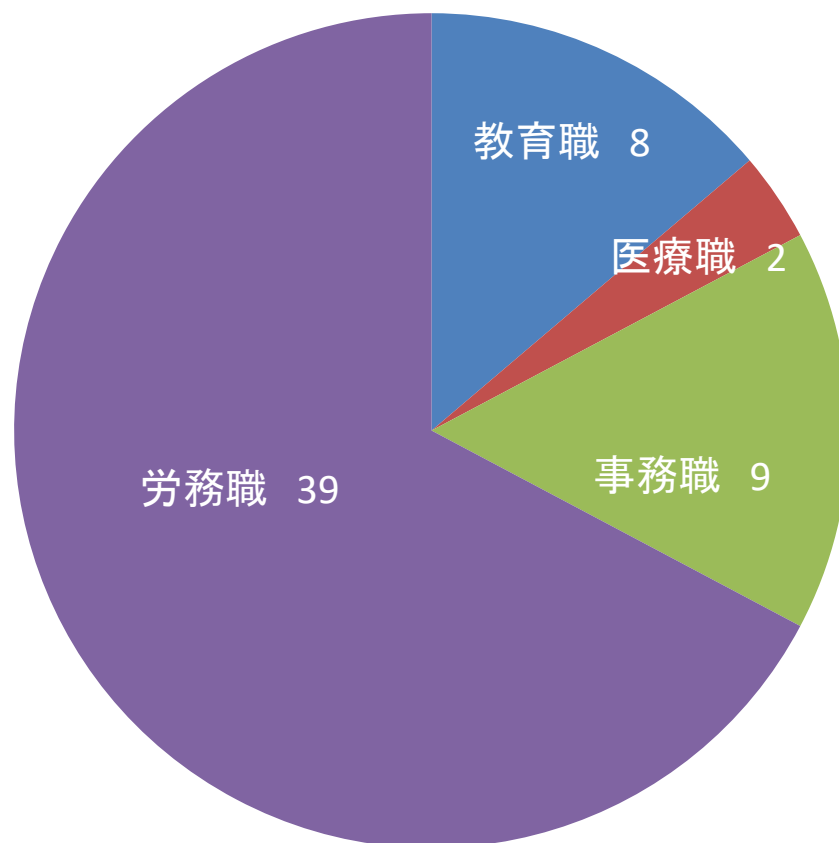
- 知的障害(療育手帳)
・・・10名
- 身体障害・・・36名
- 精神障害・・・12名



障がい者内訳【職種別】

令和3年4月1日現在

- 教育職・・・8名
- 医療職・・・2名
- 事務職・・・9名
- 労務職・・・39名



学校法人 川崎学園

障がい者雇用

川崎学園 施設部ハウスキーパー室

ハウスキーパー室 障がい者雇用人数 **29名**

※川崎学園の障がい者雇用人数 58名

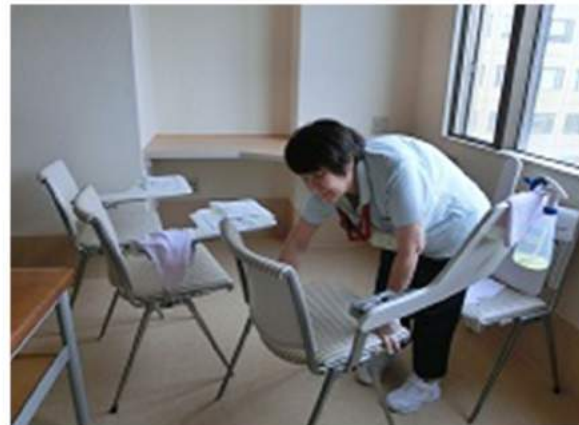
(令和3年4月1日時点)

◆ 障がい者部門

専任者(障がい者サポート) 2名



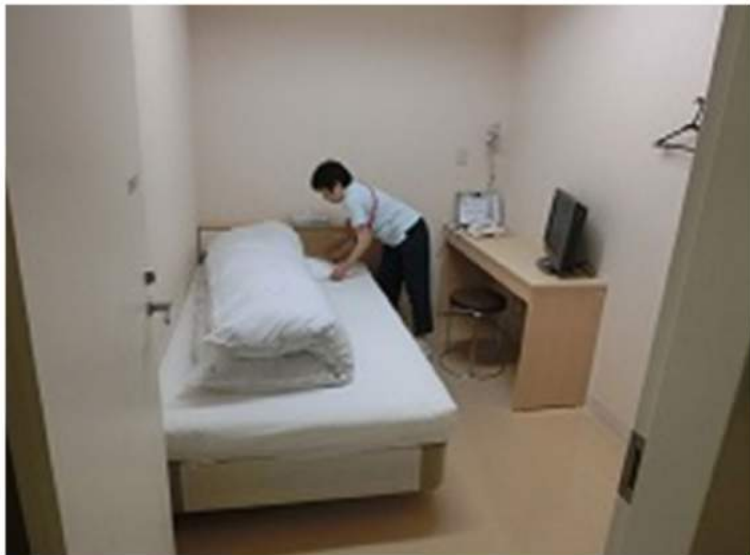
ハウスキーパー室 障がい者部門（清掃業務）



ハウスキーパー室 障がい者部門 (洗濯業務)



ハウスキーパー室 障がい者部門



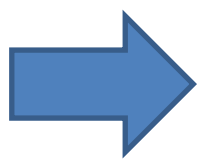
病院当直室
ベッドメイク・清掃

ダスト室
病院内ゴミ処理



障がい者雇用の方針

川崎学園は教育・医療・医療福祉の
総合学園であり、
障がい者雇用は社会的責務



今後も障害者雇用・定着を
促進していく



障がい者雇用の取り組み

- 平成23年度より総務部人事課が主体となって取り組み
- 受入部署は施設部（ハウスキーパー室・環境課）が主
- 当学園の教員を講師として職員に対して障がい者雇用についての講演を実施
- 支援機関との連携を強化
- 当学園の職員は障がい者雇用に対する理解を深める（医療・医療福祉の総合学園としての責務）
- 医療現場での雇用は現実的に難しい部分も多い（専門職）
 - ※大学病院超急性期医療→医療安全・感染対策は他病院より徹底している



雇用促進・定着に向けた取り組み

- 支援機関との連携
ジョブコーチ活用、情報の連携、3者で問題解決
- 当学園教員との連携
川崎医療福祉大学の専門教員との連携
- 職務・職域の開発
障がい者の業務拡大
- 相談しやすい環境づくり
専任職員の配置、人事課からの声かけ



求める人材

- 就業意欲のある人
- 毎日職場に来る人
- 人の話が素直に聴ける人

業務のスキルは必要ありません！！



支援者の方へのお願い(まとめ)

- ミスマッチの防止
本人の適性と就労環境の認識
- 本人の特性を教えてください
性格、得意不得意、失敗談等
- 本人および家族と事業所との橋渡し
- 入職後のフォロー
本人相談相手、指導、トラブル対応等



ご清聴ありがとうございました。



学校法人 川崎学園